

都市再生整備計画 事後評価シート
小坂井地区

平成23年3月

愛知県豊川市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県	愛知県	市町村名	豊川市	地区名	小坂井地区			面積	398ha				
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	499百万円	国費率	0.407				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	道路事業(平口新屋線) 公園事業((仮)新池公園計画整備事業←最終処分場跡地公園計画整備事業)			地域生活基盤施設(防災拠点避難地・防災倉庫等設置事業、中央公民館耐震診断改修事業) 高質空間形成施設(中央公民館エレベーター設置事業)						
			提案事業	地域創造支援事業(中学校外壁改修事業)									
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
			基幹事業	道路事業(伊奈229号線、伊奈176号線、倉屋敷東野地線、道路新設改良(フジボウ東路線))			代替路線の整備により、同様の事業効果が得られると考えられるため、事業を削除			「指標2:避難場所へ歩いていける人数」に関係するが、代替路線の整備により、目標の達成を図るため、目標値の変更は行わない。			
		提案事業	地域創造支援事業(中学校体育館改修事業)			実施設計の結果より、老朽化した箇所を改修する維持補修的な改修となり、町単独費での施工としたため削除。			「指標1:町民一人当たり避難施設等面積」に関係するが、町単独費で施工し、事業の効果が得られるため、目標値の変更は行わない。				
新たに追加した事業		基幹事業	道路事業(平井新町線、光道寺塚畑線)			・災害時に緊急車両が通行する経路であるが、道路幅員が狭小で危険な状態である。よって、歩行者、緊急車両等の通行を円滑化するため事業を追加。			「指標2:避難場所へ歩いていける人数」に関係するが、当初設定した目標を達成するための追加であるため、数値目標は据え置く。				
		提案事業	地域創造支援事業(コミュニティ施設トイレ改修事業、小中学校防犯カメラ設置事業) 事業活用調査(事業効果分析調査)			・コミュニティ施設改修事業:災害時の避難場所に指定されているため、多目的トイレを整備し、安全性や利便性の問題を解消するため追加。 ・小中学校防犯カメラ設置事業:子供達を犯罪から守ることを目的に、町内の小学校2校及び中学校1校に防犯カメラを設置するため追加。 ・事業効果分析調査:事業の効果を分析し、今後のまちづくりに生かすため、効果分析調査を追加。			・コミュニティ施設改修事業:「指標1:町民一人当たり避難施設等面積」に関係するが、当初設定した目標を達成するための追加であるため、数値目標は据え置く。 ・小中学校防犯カメラ設置事業:「小目標1:大規模災害や近年の犯罪の急増に対応するため公共施設の整備改善を行うことにより防災拠点等施設の能力向上を図り、子どもから高齢者まで地域社会全体の安全で安心な暮らしの提供を目指す」に関係するが、当初設定した目標を達成するための追加であるため、数値目標は据え置く。 ・事業活用調査(事業効果分析調査):目標、指標、数値目標には影響しない。				
交付期間の変更		当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-					
		変更	-										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	町民一人当たり避難施設等面積	m ² /人	0.76	H17	1.4	H22	1.3	1.4	○	あり なし	耐震対策が不十分であった避難施設(中央公民館、小坂井中学校)の改修により、町民一人当たりの避難施設等面積が増加し、地域の子どもから高齢者までが安全で安心して暮らせる環境が整った。	平成23年4月
	指標2	避難場所(公園等)へ歩いていける人数	人	14,000	H17	19,000	H22	14,399	19,023	○	あり なし	(仮)新池公園の整備や、小坂井中学校、中央公民館の耐震対策の実施等により、災害時に避難場所へ容易に歩いていける人数が増加した。また、拡幅等の道路整備は、避難場所への安全な避難導線の確保に寄与した。	平成23年4月
指標3	防災訓練参加者人数	人	1,323	H16	2,000	H22	2,054	2,038	○	あり なし	中央公民館、小坂井中学校などの避難施設の改修や、防災倉庫の設置により、防災訓練参加者数は増加しており、住民の防災に対する意識の向上に繋がった。	平成23年5月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	地区内人口	人	18,756	H17			18,944	19,023			当該地区内において、道路や公園といった基盤整備や、各種防災・福祉対策等の実施が周辺の生活環境の向上に寄与し、良好な生活環境の形成による定住人口の増加に繋がった。	平成23年4月
その他の数値指標2	-		-										
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 道路事業により、狭隘道路の解消や歩道の設置が図られ、安全で安心なまちづくりが促進されている。 (仮)新池公園の整備には地元の意向が反映され、今後の管理や公園の美化において新たなまちづくり活動が生まれている。 避難地の整備や避難所の耐震改修、小中学校の防犯カメラ設置により、地域の安全性を高めることができ、地元では自主防災会や防犯ボランティアの活動が活発化している。 												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	中間年にデータ収集を実施し、事業の進捗状況や指標の達成状況について整理したモニタリングシートを作成した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●		モニタリング同様に、円滑な事後評価の実施を目指し、データ収集を実施する。			
	住民参加プロセス	(仮)新池公園の計画検討		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●		地元町内会、老人会、ボランティアと連携を取りながら、公園の維持管理を進めていく。			
	持続的なまちづくり体制の構築	防災ボランティアコーディネーター養成講座及び防災訓練、ボランティア・市民団体による防災・防犯活動が行われている。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●		市民活動団体などが主体的に活動できるよう、今後も継続して側面支援を行っていくとともに、新たな活動の展開に向けた支援も検討する。			

様式2-2 地区の概要

小坂井地区(愛知県豊川市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 安全で安心なまちづくり ~町民みな防災要員~ ○目標1: 大規模災害や近年の犯罪の急増に対応するため公共施設の整備改善を行うことにより防災拠点等施設の能力向上を図り、子どもから高齢者まで地域社会全体の安全で安心な暮らしの提供を目指す。 ○目標2: 行政区単位で防災施設を整備することにより住民の防災に対する意識向上を図る。 ○目標3: 交通環境の改善を図りながら、災害時の物資輸送路・緊急車両用道路等を整備することにより災害に強い地域防災のまちづくりを推進する。	町民一人当たり避難施設等面積	(㎡/人)	0.76	H17	1.4	H22	1.4	H22
	避難場所(公園等)へ歩いていける人数	(人)	14,000	H17	19,000	H22	19,023	H22
	防災訓練参加者人数	(人)	1,323	H16	2,000	H22	2,038	H22
	地区内人口	(人)	18,756	H17	—	H22	19,023	H22

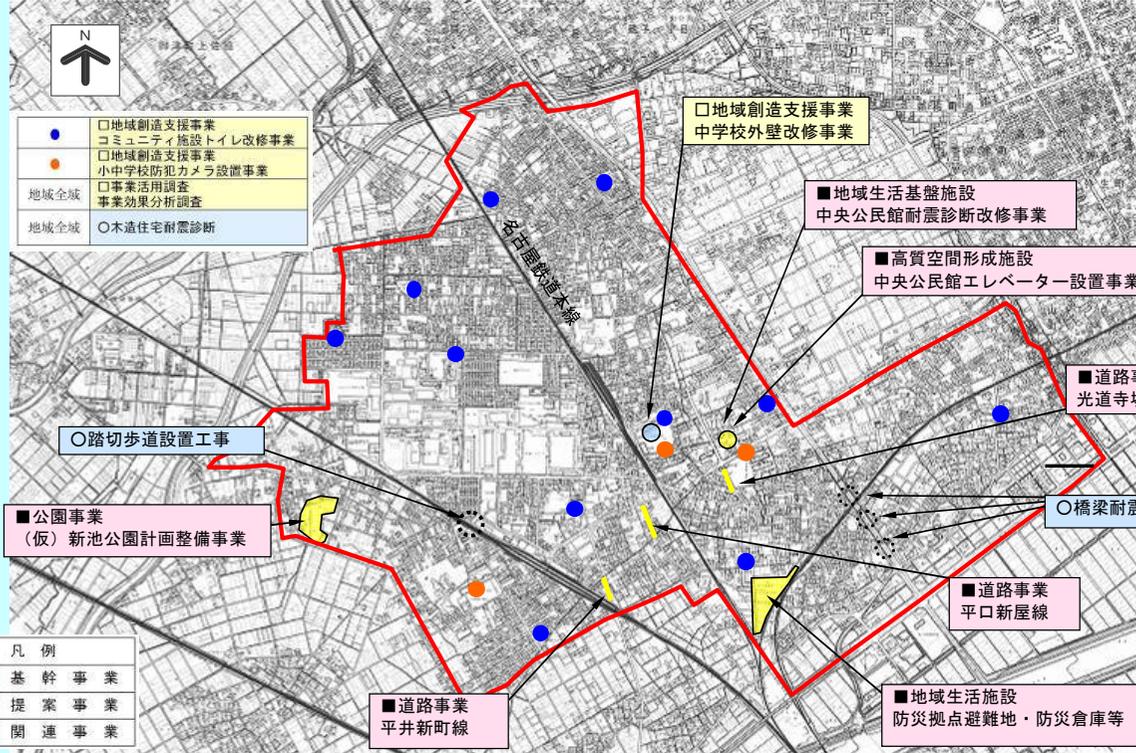
整備概要図(第5回変更)



■(仮)新池公園
※写真は工事中



■中央公民館



■光道寺堀畑線



■平口新屋線



■平井新町線

まちの課題の変化

- 道路事業や踏切歩道設置工事(関連事業)を実施したことで、地区内の交通の円滑化が進んだ。
- 道路の拡幅や歩道設置を進めることで、狭隘道路が解消され、道路の安全性が向上した。
- 中学校の外壁補修工事や窓枠取替え工事を実施したことで、外壁の剥落や窓ガラス飛散等の懸念が払拭され、災害時に市民が安心して避難できる環境が整った。
- 公民館の耐震補強、外壁改修、エレベーター設置工事を実施したことで、災害時に住民が安心して避難できる施設が整備され、災害に強いまちづくりが進んだ。
- 新池公園整備や拠点避難地防災倉庫設置により、防災に配慮した都市基盤整備が進み、さらに防災資機材・物資が充実した。
- 市内中学校に防犯カメラを設置し、不法侵入等の犯罪から子どもを守ることができた。さらに、防犯灯の設置や防犯教室の開催により防犯に配慮した安心・安全なまちづくりが進んだ。
- 新池公園の整備や防災倉庫設置など防災のハード整備は進んだものの、整備された防災機能に対する住民の認知度が低い。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 町内要望等に基づき、道路改良を行い、地区内交通の円滑化を図る。
- 町内要望等に基づき、交通安全事業を行い、道路の安全性を強化する。
- 地域住民に防災パンフレット等を配布することで、防災意識を啓発し、災害時にパニック等が生じず、安心して避難できる環境を整備する。
- 自主防災会や防災ボランティアを軸とした防災訓練、防災ボランティアの調整役となるコーディネータの養成を行うことで、災害時に、住民が避難や避難生活を安全かつ円滑に実施できる体制を整備する。
- 新池公園は、地域住民と連携し適切に維持管理を行う。防災倉庫は、定期的に防災資機材・物資の点検を行う。
- 災害時に住民が迅速かつ安全に行動できるように、地域の防災施設を網羅した、防災マップを作成し、自主防災会等と地域の防災情報について確認を行う。
- 地域の防犯を高めるために、市として町内会や防犯ボランティアに対する支援を積極的に進める。